

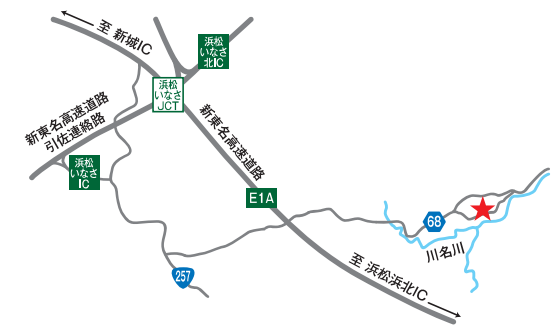
中世以来の農山村景観が今に息づく「川名ひよんどりの里」

(浜松市浜名区)



受賞者

川名ひよんどり保存会
NPO 法人わたぼうしグランドデザイン
一般社団法人 College Impact Japan



アクセス

新東名「浜松いなさIC」から車で約10分

所在地

浜松市浜名区引佐町川名



川名は東西約1.5km、標高100～130mほどの小さな盆地を中心に集落が展開しており、北側に霧山（標高430m）、南側に三岳山（標高467m）がそびえ、三岳山の麓を川名川が東流し都田川に注いでいます。沢沿いの傾斜地を活かした棚田のほか、段々畑では花木栽培が営まれています。集落内には三岳城跡（国史跡）、井伊直平墓所や鎧橋（いずれも浜松地域遺産）など井伊家ゆかりの史跡・建造物・伝承地が点在し、伝統行事「川名のひよんどり」（国重要無形民俗文化財）が室町時代の応永年間（1394～1428）から連綿と伝えられています。

当地域では、昭和50年（1975）に設立された川名ひよんどり保存会を中心に、伝統行事の継承活動のほか、歴史的建造

物保存修理や史跡看板設置など、日常の風景に埋もれていた歴史遺産を、景観資源として磨き上げ（顕在化）することで歴史的景観の維持と地域活性化に取り組んでいます。

特に、地域社会の変容が著しい中山間地域におけるコミュニティ（地縁に基づく地域型コミュニティ）活性化の新たな形として、伝統行事「ひよんどり」を核に、学生団体・NPO法人・一般社団法人といった多様な主体（テーマ型コミュニティ）との連携を深化させています。少子化や人口減少の影響を受けながらも、伝統と変革を融合しながら新たなコミュニティを創造することで、歴史的な集落景観の保全を図るとともに、今後も地域の魅力を発信していきます。

審査委員より

福満寺薬師堂の保存修理や史跡の案内・解説板の設置などが行われており、最大の景観特性は、段々畑に栽培された花木のランドスケープや伝統的な面影を残す住宅などの集落景観にあります。

また、「ひよんどり」という伝統祭事を中心とし、川名という中山間地域の村落景観の保存活動に長年努力している姿が、大変素晴らしいと感じました。NPO法人・一般社団法人・学生団体などと連携し、伝統遺産のための後継者育成や集落の情報発信といった事業を展開していることも、大いに評価できる点です。